



もり 森林の風

特定非営利活動法人
森林の風
会長 蒲田 博
2012.6.30. 発行

第12号

だより

2012 まちのきこり人育成講座
スタート!

3/31
第1回

いきなり雨で座学。
午後はハイキング。



4/7
第2回

水源の森プログラム。
現場で救急法。



4/28
第3回

プロット調査と選木。
測量。



5/26
第6回

チェーンソーの取扱い。
チェーンソー間伐。



5/12
第5回

竹林整備体験。
竹ポットと植樹苗作り。



4/29
第4回

前日選木した木をノコギリ間伐。
枝打ちもして明るくなる。



6/9
第7回

人気ナンバーワン!
チェーンソーのメンテナンス



6/16
第8回

最終回も雨。ウィンチ等の
扱いと、ロープワーク。



レベルアップ研修会 参加受付中。

森林施業 NPO法人  もり
森林の風

連絡先 / 〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088
<http://www.morinokaze.info> *詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。



昨年の東北大震災や台風 12 号による紀伊半島の豪雨災害において、森林の風では、活動時に募金をお願いしたり、チェーンソーや刈払い機を現地に送ったりしました。また、紀宝町へはチェーンソーボランティアとして流木処理に行きました。

今後、森林の風がそのような災害復旧時に何ができるのか、普段から備えておけることは何か、ということについて実際に震災や豪雨被害の現地で活動された林業家の川又さん、三重県職員の水の上さんにお伺いしました。

災害時におけるボランティア活動について

神奈川 (有)川又林業 川又 正人



昨年の 3 月 11 日の東北大震災には皆様方より多大なるご支援を頂きありがとうございます。西日本の皆様方の中には阪神淡路大震災で被災された方もおられると思いますが、こうしてみると日本列島は何処かで災害が起きており、どなたが被災しても不思議ではありません。小生は震災当日、横浜で会議中でした。横浜の埋め立て地もかなり揺れました。弊社の森林整備作業の現場には連絡が付かず、現場の状況は全く把握できませんでした。

弊社は小規模災害に対するマニュアルは作成し訓練をしているもののこのような大規模な災害は想定していませんでした。まずは化石燃料を節約する事、水を含む食料を確保する事、翌日からしばらく休業して様子を見ることを連絡しました。当社で働いてもらっている方の身内が原発で働いており、福島原発が危ないという連絡を受けたそうで、小生はそれを聞いてチェルノブイリでの事故が脳裏をかすめました。



当社には、作業用の燃料が置いてありましたので、社員で岩手の宮古出身の者が、実家が心配なので帰省したいと申し出た際、携行缶に燃料を積んで出発するように指示しました。また日本山岳ガイド協会の方からは、医師団の緊急派遣を計画しているとのことで、ガソリンの提供を要請されました。喜んでガソリンと発電機の提供をしました。また、知人の身内の方で、山北に避難された透析患者さんの通院の燃料が見つからないと相談を受けたのでここにも提供しました。

災害当初の支援は短期的に出来る事をするしかなく、中期的には徐々に復旧した通信手段を活用し、必要な物を必要な方に支援するという事が出来ます。岩手バイオマス研究会の深沢さんからのメールで応援依頼があり、さっそく頑張ってほしい旨を返信しました。これが契機になり、岩手県の大槌町の避難民に風呂を提供する事が瞬間に実現しました。食べて寝て次は風呂との発想は現実的でした。被災地には木質燃料は山のようにあり、転がっている水産加工用の大きな水槽を浴槽にし、U字溝を加工してボイラーを乗せ立派な風呂の提供ができました。このプロジェクトには土佐の森・救援隊の方に長期間ご支援して頂いたことを記させていただきます。この土佐の森・救援隊に直接的なお金の支援のメールが



流れました。支援者の支援もまた必要なのです。長期の支援は少し落ち着いてから必要で、これは長い期間の支援を必要とします。災害孤児になられた方や、医療を必要とする方、生業を立ち上げる方



などです。また避難民が支援を受けるだけでなく、自ら体を動かし避難民である仲間を支援することも有意義なことで、これにはチェーンソーや簡易搬出機材や軽トラックが大活躍します。

また、小生もすぐさま、鎮魂の森の造成の必要性を盛岡市役所に訴えました。用地は提供するので予算化してもらえないだろうかと提案しましたところ、回答は急には無理であるとのことでした。緊急を要することが沢山あり手が回らないという事は確かに理解できるもののそれにもめげず自らが行動を起こさなければ支援は進みません。思い立った時に行動し、良いと思った事はそれを応援していくことが必要です。小生も関係する視覚障害者の避難や支援策も十分ではありませんので、これから息の長い支援を続けて行こうと思っている所存です。皆様方には今後ともご支援のほどを宜しくお願い申し上げます。
(記：盛岡にて)

「できることをする」

三重県熊野農林商工環境事務所森林・林業室 水上 知之

2011年は東日本大震災や、紀伊半島を襲った台風12号による災害などが発生しましたが、従来の枠組みにとらわれない多方面からの支援によって、復旧、復興へと進んでいます。

森林、林業という視点では、山地災害だけでなく、津波や洪水による流木での被害が多発し、高性能林業機械の活用や、ボランティアによる流木の撤去作業が行われました。私自身としては、みえ災害ボランティア支援センターのチェーンソーボランティア助成制度の創出に携わったことが印象に残っています。

これから起こりうる災害に対し、森林、林業分野に携わる者はどのように向き合っていけばよいのだろうか？結論としては、「各自ができることをする」ということになるのではないのでしょうか。被災地だからといって、いきなりスーパーマンになれるわけではありません。普段からレベルの高い活動を行うことが、被災地でも力になると考えます。

そして、垣根を越えた交流を日常から積み重ねることで、情報が共有され、互いのスキルを知ることができます。被災地での活動をコーディネートできる人物に対し、森林、林業の技術を知っていただくことが、新たな活動の創出につながると考えています。

SIDE1. 表彰

四日市市より
都市緑化関係功労者
に選ばれました



NPO法人の表彰は今年が初めてだそうで、事務局がある四日市市で活動が認められたのは喜ばしいことです。ちょうど、四日市市水沢地区での活動も始まります。

表彰式に先立つ24日から2週間、四日市市市立博物館において市民ギャラリーに展示コーナーを設置しました。



森林の風からは森での作業道具、中勢森林組合からは山での装備や特大チェーンソーなどを借り受けて展示しました。

2012年度 NPO法人森林の風臨時総会を開催

2012年度の事業について話し合うため、少し早目の3月25日(日)に2012年度通常総会を開催しました。その後6月3日(日)に臨時総会を開催し、会員数23名のうち出席者14名委任状提出者6名の計20名につき総会が成立。**1. 2011年度の決算報告、2. 2011年度の事業報告、3. 認定NPOを目指すにあたっての定款変更**について議案があり、協議の結果参加者全員一致で承認されました。

認定NPO化については、会員の南条、松永、瀧口を中心に「難題」とも言える経理・運営等申請時の条件をひとつひとつクリアすべく奮闘中です。4月から賛助会員の募集を始めているのもそのひとつです。さっそく多くの方々にご理解を賜り、賛助をいただいていることにこの場で厚く御礼申し上げます。今後とも、応援していただいている皆様のお気持ちと共に森林保全活動をすすめ、公正な団体運営を心掛けてまいります。

報告 Report 森林の風 施業地一覧

【櫻井】

昨年6月発行の機関紙第8号以降の施業地について紹介させていただきます。2011年度終了時点で、NPO発足当時よりの合計施業面積が100haを超えました。



2012年3月31日現在

施業年度 (完了時)	活動 名称	活動地		作業内容	進捗
		市町村	面積(ha)		
			103.62		
2011	水源の森プログラム	鈴鹿市	0.00	枝打ち、間伐	進行中
2011	水源の森プログラム	鈴鹿市	1.00	竹林整備	進行中
2011	水源の森プログラム	桑名市	2.50	除伐、地拵え、植樹	進行中
2011	造林(草刈)請負	四日市市	0.08	下草刈り	終了
			3.50		
2005年度(認証時からの)施業完了面積			103.62		
2011	水源の森プログラム	菰野町	0.45	除間伐、林内整備	終了
2011	水源の森プログラム	桑名市	2.00	除伐、地拵え、植樹	部分完了
2011	水源の森プログラム	鈴鹿市	1.42	間伐	終了
2011	水源の森プログラム	菰野町	0.90	枝打ち、間伐、搬出	終了
2011	水源の森プログラム	亀山市	1.07	間伐、一部搬出	終了
2011	枝打ち請負	亀山市	0.47	枝打ち 600本	終了
2011	植栽請負	津市	2.78	補植 700本	終了
2011	水源の森プログラム	亀山市	0.54	枝打ち、間伐、搬出	終了
2011	水源の森プログラム	四日市市	0.50	除伐、下草刈り、植樹	終了
2011	造林(草刈)請負	四日市市	0.08	下草刈り	終了
2011年度施業完了面積			10.21		

注1…活動形態(水源の森プログラム)とは、水源の森プログラムに基づく施業依頼

注2…現在進行中の活動地は、年度計、累計には含まない。

論考 Consideration 私見 —間伐率を考える—

【井伊】

針葉樹の特にスギ・ヒノキの人工林(以下人工林)を前にして、どのくらい間伐すればよいのかということがよく話題になる。とにかく3割位で良いだろうという人もいるし、樹高の2割の距離を確保しろと書いている本もある。もし山主さんから完全に判断を委ねられた場合、一体どう考えたらいいのだろうか。

間伐率を考える上でのキーワードとしては 林齢、形状比、相対幹距比、地位指数、収量比、施業履歴などが思い浮かぶ。こうした指標は施業計画を立てる上で欠かせないものだが、そもそも人工林の保育だけを考えた場合、間伐する理由は何かという

- ①育てたい木の成長に邪魔になる木を取り除く
 - ②地面に効果的に光を入れることで下層植生を育てる
- の2点につけるのではないかと。
- ①は保存木の枝葉の成長を促し、幹の肥大生長を促進することになるし
 - ②は下層植生の繁茂により保存木の栄養分が確保され、かつ森林の土壌浸食を防止し洪水緩和機能の維持に資することになる。

鋸谷式間伐の鋸谷氏は、どんな間伐がよいかという質問に答えて「1本の木について見た場合、隣木と枝葉が接触したら 成長が抑えられるので最低でも保存したい木に接触する木を1~2本にするのが良い」と述べている。こうすることで保存木の成長と下層植生の繁茂が可能となるという。

また東京大学の蔵治氏もその著書『森と水の関係を解き明かす』の中で 有効な下層植生の確保には20~30%の林内照度が必要だと書いている。

つまり其々の木の樹冠を見て、枝葉の接触具合を調整した結果としてトータルの最適間伐率が出て来る訳である。これなら現場で作業しながらでも出来るし、作業による違いも少なそうだ。木の生理機能から見ても理にかなっていると言える。ということで 例えば形状比100で、まだこれから成長が見込める人工林を施業する場合、理想的な間伐率を得る為に1施業2回間伐を提起したい。つまり

- ①1回目は主に幹の間隔を見て間伐木を決めていく。やり方としては保存木をマークするか相対幹距比20程度を目指して選木し、間伐を行なう。
 - ②①の後、樹冠を見ながら 隣木との接触が1~2本になるよう間伐する。
- のである。いきなり②だけだと施業計画にならないし、②を省くと画一的な机上論に偏ってしまうのでこの際両方やろうというわけだ。ただ実際に②をやってみると、かなりスカスカな感じになるので、心配だから3本にするという人もいるが、そうすると5年も待たず樹冠は鬱閉するので また手を入れる必要が出て来ることになる。いずれにしてもこのやり方の結果、間伐率がどうなるか一度ためて見たいものである。



2012年度まちのきこり人育成講座
レベルアップ研修会

詳細案内はホームページをご覧ください。

【第1回:7月7・8日】

京都・芦生原生林と福井『鋸谷式間伐』を学ぶ は募集終了

【第2回:9月8・9日】吉田本家、速水林業、「なすび伐り」の尾中氏を訪ねる は参加募集中。定員になり次第募集終了。

活動報告・活動予定

—竹イベント—

2012年4月8日(日)

鈴鹿市下大久保、菟野町みえぎんまなびの森

一般:9名、みえぎん森林倶楽部:12名、会員:10名

京都府から高野竹工作東前りさ氏をお迎えし、晴天の中竹林での作業と、竹材の食器作り、筍料理の炊き出し等を行った。【堤】



—鈴鹿川海山交流会—

2012年5月19日(土)

亀山市諸戸林業坂下営業所

白子漁協/加太緑の少年隊/その他:93名、会員:6名

晴天の中、ノコギリ間伐体験が行われた。鈴鹿森林組合の村田氏がチェンソーで伐倒デモを行い、森林の風メンバーは各班に1名付いて指導に当たった。間伐後、森林パークに移動し昼食、森林組合の女性陣により「地の物を」とブタ汁とみそ焼きうどんが振る舞われた。食後に行われた森林に関する〇×ゲームは結構難しい問題もあり、参考になった。次回7月は白子漁港で開催される予定である。 【担当 大石】



—多度中学校 間伐体験学習—

2012年5月21・23日(月・水)

桑名市多度山

多度中学1年生:120名、会員:9名

21日に森林の現状や伐倒方法などを事前説明し、雨天を繰り延べて23日に実践。ふだんノコギリを持ちなれない生徒たちは受け口作りに苦労した。しかし大きな木が倒れると歓声が

起き、玉切った丸太の皮をむいたり先端をツリーにしたりして楽しんだ。この後、光が差し込み「健全な森」になっていくことを説明した。 【櫻井】

—中部電力一本の木プレゼント:御在所岳植樹—

菟野町 御在所岳頂上公園内カモシカセンター跡地

準備作業:5月17日、21日、24日

開催日:5月27日(日)

植樹応募80名

中部リサイクル5名

中部電力3名 合計103名、

応援:2名、会員13名



晴天に恵まれ植樹。シカの食害にあわないようネットを張って守る。昨年植樹した地点を見に行くと、無事育っているが苗の大きさはそんなに変わらない。今背丈より大きいシャクナゲは何十年と生きてきたものと実感。小さなお子さんが大人になり、年をとるまで何度も見に来ていただければうれしい。【清水】

—現在施行進行中— (回数は目安)

◆向井F1の森(月2回) 林内整備、獣害対策

◆四日市西山町(月1回)植樹後の管理、周辺整備

◆四日市下大久保(月1回)竹林整備・竹ポット作成

<定期活動日>

第3日曜日 → NTNこもれびの森 / 第2・第4日

曜日 → みえぎんまなびの森

—今後の予定— (詳細はHP等でご確認ください)

●協働企業の新入社員研修・イベントとして植樹を予定

●名古屋市教委の小中学生対象森林体験

●桑名市多度山森林ボランティア入門講座

編集後記

この森林の風だよりも年4回の発行を続け、今回の発行で丸3年になります。会員はもちろんのことゲストの方々の原稿に助けられここまでよききたなというのが実感です。すべてに満足できるような機関紙にはなかなか届きませんが編集係として一生懸命やっていることだけは自負しています。特に会員の皆さんには積極的な原稿の作成を今後ともお願いいたします。【編集係…裏川、清水】